

## ADCA活動報告

### ODA 現地タスクフォースとの意見交換 パキスタン現地調査

ADCA では、プロジェクト・ファイナディング調査を効果的・効率的に実施するために必要な情報を収集することを目的として、平成 18 年度より ODA タスクフォースとの意見交換を実施している。平成 22 年度は、最後の年となり平成 23 年 2 月 18 日から 2 月 26 日までパキスタン・イスラム国に調査団を派遣し、ODA 現地タスクフォースとの意見交換や情報収集を行い、案件形成の際の留意点等を整理した。

本調査では、ODA 現地タスクフォースである在パキスタン日本大使館、JICA パキスタン事務所を表敬し、情報収集及び意見交換を行うとともに、ODA 現地タスクフォースとの合同ミーティングを行った。また、パキスタン政府機関である経済省、灌漑・電力省、国際機関であるアジア開発銀行パキスタン事務所を表敬し、情報収集及び意見交換を行った。さらに、2010 年 6 月に発生した洪水被害地（ムルタン）を視察した。

パキスタンにおける ODA 現地タスクフォースは、在パキスタン日本大使館、JICA パキスタン事務所、JETRO で構成されており、その他、意見収集方法として、有識者会議を適宜実施している。このタスクフォースによる日本国の援助の現状については、先方政府の ODA の窓口である経済省との協議をふまえた上で、「ジェンダー」、「環境」、「ガバナンス」を横断的イシューとし、(1) 人間の安全保障の確保と人間開発 (2) 健全な市場経済の発達 (3) バランスのとれた地域社会・経済の発達を重点項目として援助を行っている。また国別援助計画は 2005 年に策定されているが、今後は援助方針に変更していく予定で援助方針ではプロセスの簡素化や、援助計画と展開計画を統合させたものになる予定であるとのことである。

本調査によって明らかになった今後のパキスタンにおける援助の方向性や、案件形成を行う上での留意点としては、以下が挙げられる。

- ① 営農、栽培技術などといった生産段階および、溜池を活用した灌漑インフラの整備、生産から消費者までのバリューチェーンの構築への技術協力
- ② 洪水時を想定したハザードマップの策定、ハザードマップに基づく避難計画の策定、避難場所・施設の設置、地域農民・住民に対して洪水時の対応に関しての啓発、緊急時の連絡体制、ハード部局であるパンジャブ州灌漑局と地域の各自治体の情報共有及び連携を図ること等のソフト対策
- ③ ①②を活用したコミュニティーベースの地域・農村防災力向上による生計向上プログラムの策定



ODA 現地タスクフォースとの合同ミーティング



灌漑・電力省との打合せ

### 官民連携技術協力促進検討調査

ADCA では、途上国における農業農村開発分野の支援対象国として、持続的水利用技術（特に地下水利用技術）の導入による農業農村開発の可能性について社会的、経済的、技術的観点から調査・検討を行なった。

平成 22 年度は平成 23 年 1 月 22 日から 30 日までブルキナファソ国へ調査団を派遣し、農業・農村開発に関する経

済協力の基本方針の検討に必要な情報を収集および地下ダムにおける持続的地下水有効利用の可能性について検討した。

本調査では、ブルキナファソ政府機関である SP/CONNEDO、水資源総局、日本の関係機関である在ブルキナファソ日本大使館、JICA ブルキナファソ事務所を表敬し、情報収集及び意見交換を行った。また、日本の環境省によって1997年～2002年に砂漠化防止対策モデル事業で施工された地下ダム（ナレ村）およびブルキナファソに既存する地表ダム、灌漑施設を視察した。

地下ダムは、堤高8m、長さ200mでワジの河床をブルトーザーで掘削し、粘土分の多い掘削土を転圧した埋設型アースダム型式として建設された。貯留量は180万 $m^3$ 程度と試算され、ダム上流には地下に貯まった水をくみ上げるための井戸が3ヶ所あり、太陽光パネルを電源とするポンプで取水塔まで揚水し付近の農家などに配水するという計画であった。しかし、肝心の揚水施設は、太陽光パネルが盗まれたため稼働していなかった。

今回の調査で建設された地下ダムの水は流動的であり、また十分に貯水ができていたことが確認できた。したがってブルキナファソ国において地下ダムは持続的地下水の有効利用技術のひとつと言えた。一方で地下ダム施工場所の選定には高い技術力が必要であり、基盤及び帯水層等不確実な事が多い点から施工に適した場所の選定に困難を極めるために、今後官民が一体となりこれらの調査を続けることでブルキナファソ国、またサハラ地域での持続的地下水の開発が可能であると言える。しかし、地下水を使用するにあたって水の汲み上げの原動力源などの確保や維持管理などの問題があり、これらを解決できなければ、この国での地下ダム開発は難しいともいえる。

ブルキナファソ国では地下ダムだけでなく、地表ダムから漏えいする水を貯水するなど、地下ダムと地表ダムの複合ダムの検討やアフリカの水源開発によく用いられる堆砂ダムに注目して、地下水と地表水の一体運用を考慮に入れた調査を行うことで、更なる水源の確保につながると考えられる。



SP/CONNEDO との打ち合わせ



地下ダムへの浸透堰

### PCM手法（モニタリング・評価）研修

平成23年2月14日から2月15日の2日間に渡り、農業土木会館の会議室にて、(株)国際マネジメントシステム研究所の花田重義氏をお招きし、平成22年度PCM手法(モニタリング・評価)研修を開催した。本研修にはADCA正会員より合計17名が参加し、グループ作業を通じてPCM手法を用いたモニタリング・評価手法を修得した。

住民参加型の開発手法として活用されているPCM(project Cycle Management)手法にプロジェクトマネジメントの要素を取り入れ、「Plan - Do - See」の一連の流れからプロジェクトの管理手法を修得できる研修を目指している。今回の研修は、その中のモニタリングと評価に関する手法について官民連携で視察を行ったブルキナファソの事例を用いて行った。

ほぼ全ての参加者が、本研修を研修に対してまあまあ期待通りであったとの回答を寄せており、研修に対する評価は概ね良好であった。研修最終日に実施した理解度確認テストの平均は92点であり、理解度の高さを示す結果となった。また、研修期間、時間配分については、参加者の意見が分散しており、今後研修期間を長くするなど改善が必要だと思われる。



研修風景

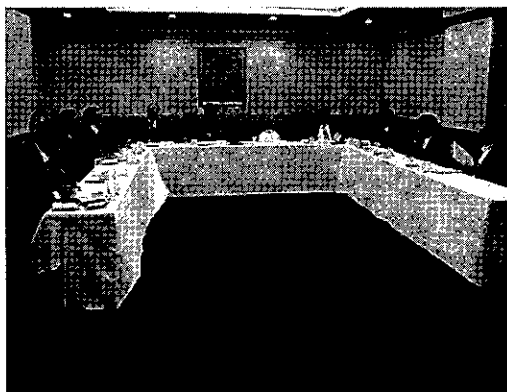
### ADCA 通常総会・理事会の開催

2011年5月25日にADCA第68回理事会が開催、第35回通常総会され、理事及び監事が選任された。続いて、第69回理事会が開催され、会長が互選された。

また、会議終了後には、懇親会が開催され、農村振興局齋藤局次長、JICA高島理事から来賓のご挨拶を頂いた。懇親会には、50名以上の方々にご参加頂き、関係者間の交流を深める有意義な場となった。ご多忙の中ご出席頂きました皆様には、感謝申し上げます。

なお、新役員は以下の通りである。

職名	氏名	新／再任
会 長	青山 威康	再任
副 会 長	久野 格彦	再任
理 事	松岡 俊二	新任
理 事	村井 浩	再任
理 事	望月 久	再任
理 事	岩本 彰	新任
監 事	千葉 俊彦	再任



第35回通常総会